

## ブックレット 著者からのメッセージ

### 「長良川河口堰とハッ場ダムを歩く」

梶原 健嗣

(愛国学園大学人間文化学部 教授)

戦後日本のダム問題を振り返った時、これなしではその歴史は語れないというダム問題が幾つかあります。そのなかで、長良川河口堰は誰もが「最重要事例」とするのは間違いないものでしょう。長良川河口堰は、ダム反対運動の在り方を大きく変え、パラダイム転換を告げた事例でした。また 1997 年の河川法改正にもつながり、河川行政にも大きな影響を与えました。

ハッ場ダムも、そうした事例の 1 つです。民主党への政権交代で注目を集めたハッ場ダムは、戦後直後の大型台風（カスリーン台風）に端を発し、時代ごとにその位置づけを変えながら、2020 年に運用を開始しました。構想表明から実に 70 年余りを経て完成、最終的には、5,320 億円という、日本一高額なダム事業になりました。

そんなハッ場ダムは、私にとっての研究の原点です。このブックレットでは、いまはもう見ることができない旧温泉街などを、写真なども交え紹介しました。70 年弱の歴史を踏まえながら、現地を訪れるお供（ガイドブック）にしていただければと思います。